

フィリピン台風
サモア地震
スマトラ地震

緊急募金 スタートしました

緊急募金に対するあたたかいご支援をよろしくお願い申し上げます。



©UNICEF/Antara - Arif Prabadi

▲スマトラ沖地震

2009年9月26日～30日にかけて、東南アジア各国では、地震・津波、台風・洪水など大規模な自然災害が連続して発生し、多くの死者・行方不明者、避難民が出るなど甚大な被害に見舞われています。

中でも社会的に弱い立場にある子どもたちの状況は極めて深刻です。多くの子どもたちが肺炎や下痢

性疾患、感染症等によって命の危機にさらされ、災害による恐怖体験や家族を失ったことで心に深い傷を負うなど、一刻も早い支援とケアを必要としています。

ユニセフは災害発生直後から、被災各地で子どもとその家族のための緊急支援を開始しました。被災した子どもたちに必要な支援を迅速に届けるために、ユニセフは現在全力をあげて活動を行っています。これらの支援には緊急かつ大きな資金を必要となります。

岩手県支部 3つの緊急募金について受付中

《郵便振替》 00190-5-31000

《口座名義》 財団法人日本ユニセフ協会

- ◆通信欄に「フィリピン」「サモア」「スマトラ」いずれかの緊急募金先と K1-030 岩手県支部と明記下さい。
- ◆送金手数料は免除されます。
- ◆当協会への募金は寄付金控除の対象となります。

なお、当緊急・復興支援に必要な資金を上回るご協力をいただいた場合、現在行われている他の緊急・復興支援に活用させていただくことがありますので、ご了承願います。



▲フィリピン台風



©UNICEF Pacific/Cherelle Jackson

▲サモア地震



子どものためのパートナーシップ
—日本とユニセフの協力60年—
JAPAN-UNICEF
partnership 60th



子どものための パートナーシップ

～日本とユニセフの協力 60 年～

(財)日本ユニセフ協会会長
赤松 良子

「日本でも、60年の間に、子どもや女性の状況に様々な進歩がありました。女性が当たり前活躍できる時代が来ると信じて、私は仕事をしてきました。単に悲惨さを強調するのではなく、子どもや女性の尊厳を守り、誰もが持っている権利を実現していくために、日本ユニセフ協会は、多くの人々に支えられながら、広報・募金活動と、政策提言活動を続けています。」

ユニセフ出前講座

学校や地域でユニセフを学びました。



▲花巻ユニセフ講座…5月から3回シリーズで開催



▲滝沢村立滝沢南中学校 7月9日



▲盛岡市立上田小学校 9月2日

ユニセフ・パネル展 花巻・盛岡で開催



▲アグネス・チャン大使の中国大地震視察記録 7月15日・7月25日



ユニセフカード&ギフトの頒布



▲いわて生協福祉まつり 8月23日

映画「地球のステージ ありがとうの物語」

～盛岡・花巻会場で300人が子どもたちの笑顔に励まされる～
9月22日盛岡市アイーナ、9月27日花巻市なはんプラザで開催。



▲盛岡会場で佐藤監督(左)の挨拶に参加者一同から大きな拍手

映画は、地球のステージ代表の桑山紀彦医師が紛争地や被災地の緊急医療活動の中で出会った子どもたちの様子と触れ合いを、透き通るような桑山医師の歌を交えながら伝えてくれました。この映画は、観る者に、心や身体に傷を受けながらも子どもたちの命のかがやきが伝わり感動の涙と、何か自分のできることからはじめたいという思いなど、多くのことを感じさせてくれる映画でした。来場者たちからは、「地球のステージをもっと広めたい」「10代、20代の人たちに見てほしい」などの声が寄せられました。

2009

ワン・ワールド・フェスタinいわて

10月17日

主催者手県国際交流協会



▲岩手県支部の活動紹介、ユニセフカード&ギフトのコーナー



▲美香先生～英語でユニセフクイズ～楽しくユニセフを学びました。

ユニセフ募金報告

1,140,354円 2009.4～2009.9

- 紫波町立古館小学校
- 花巻市立太田小学校
- 花巻市立矢沢小学校
- 県立花巻北高校
- はなまきUC
- 鈴木 彰子
- 菊地 泉
- 松本 勝生
- 林 正文
- 高橋 誠子
- 内澤 祥子
- 勝又 弘子
- 湊 早織
- 渡辺 徳司
- 栗石 正男
- 佐藤 悦郎
- 中村 紀子
- 高橋 咲子
- 高橋 譲治
- 守谷 祐志
- 藤澤 啓一
- 岩崎 賢江
- 川島 京子
- 川島 晃
- 立正佼成会花巻教会
- 第6回いわて女性洋上セミナー六洋会
- 盛岡医療生活協同組合
- みやこ映画生活協同組合
- 岩手県立学校退職教頭・副校長会
- 日本ユニセフ協会岩手県支部花巻友の会
- 日本ユニセフ協会岩手県支部

(敬称略・順不同)

岩手県支部にお寄せいただいた募金です。
払込用紙の通信欄に岩手県支部コード
K1-030と記入されたもので送金いただいた方々です。



▲滝沢村立 滝沢小学校 10月7日



▲いわて生協福祉まつり(左から2人目)にて募金活動

子どもたちのための前進

「子どもたちの前進 子どもの保護に関する報告書」を発表

子どもの権利の侵害をなくすための取り組みについては、いくらかの進展があるものの、子どもたちに対する虐待の程度については、まだ十分に分かっていません。世界中の多くの子どもたちにとって、暴力と搾取は依然として厳しい現実として存在しています。

世界中の何百万人という子どもが男女を問わず人身売買の被害にあい、親による保護を受けられず、あるいは学校教育や基礎的な医療を受けるために必要な書類を持っていません。さらに何百万人もの子どものたちは劣悪な環境での労働を強制され、また家庭、学校、コミュニティ、あるいは施設や拘留下において、多くの場合、保護者であるはずのおとなたちからの暴力や虐待にさらされています。

この問題はユニセフのアン・ベネマン事務局長が10月6日、東京にて発表したユニセフの新しい報告書「子どもたちのための前進:子どもの保護に関する報告書」において検証されています。

「子どもの権利条約 制定20年」

子どもの権利条約

「児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)」は、子どもの基本的人権を国際的に保障するために定められた条約です。

18歳未満を「児童(子ども)」と定義し、国際人権規約(第21回国連総会で採択・1976年発効)が定める基本的人権を、その生存、成長、発達、発達過程で特別な保護と援助を必要とする子どもの視点から詳説。前文と本文54条からなり、子どもの生存、発達、保護、参加という包括的な権利を実現・確保するために必要となる具体的な事項を規定しています。1989年の第44回国連総会において採択され、1990年に発効しました。日本は1994年に批准しました。

「子どもの権利条約」-4つの柱

生きる権利

子どもたちは健康に生まれ、安全な水や十分な栄養を得て、健やかに成長する権利を持っています。

守られる権利

子どもたちは、あらゆる種類の差別や虐待、搾取から守られるべきです。紛争下の子ども、障害をもつ子ども、少数民族の子どもなどは特別に守られる権利を持っています。

育つ権利

子どもたちは教育を受ける権利を持っています。また、休んだり遊んだりすること、様々な情報を得、自分の考えや意見を言えることが守られることも、自分らしく成長するためにとても重要です。

参加する権利

子どもたちは、自分に関係のある事柄について自由に意見を表明したり、集まってグループを作ったり、活動することができます。そのときには、家族や地域社会の一員としてルールを守って行動する義務があります。

ベネマン事務局長 日本に児童ポルノの所持禁止を訴える

記者会見の後半、ベネマン事務局長は、児童ポルノ問題に関する日本の報道機関からの質問に対し、次のように答えました。

「児童ポルノは、深刻な形態の子どもの権利の侵害行為です。私の知るところ、G8国中、児童ポルノの所持を法律で禁止していない国は日本とロシアだけです。これは、インターネットの普及によって、児童ポルノの問題が深刻化している現状から考えると、憂慮すべき状態です。他の国々で所持を禁止しても、日本で所持を禁止していなければ、インターネットを通じて、他の国々から児童ポルノを見ることができてしまうのです。」

「世界を見回した時、児童ポルノの所持を禁止していない国は他にも多数あります。しかし、日本やロシアのような国々が禁止していないことによって、この問題への国際社会の取り組みに、大きな「穴」を空けてしまっているのです。」

「表現の自由の問題があることも承知しています。私自身、表現の自由を最も尊ぶ国の出身です。そうした国々が、既に児童ポルノの問題に真剣に取り組んでいます。表現の自由には責任が伴います。表現の自由には、許される範囲というものもあります。しかし、他者を差別したり、陥れようとしたり、虐待したりするような表現は許されるべきではありません。」

「日本の国会が、党派を超えてこの問題に取り組んでいってほしいことに感謝します。これは何よりも子どもたちの問題です。そうした問題の解決に、政治的立場の違いがハードルになってはならないのです。日本の国会議員のみならずにも、ぜひ引き続き、党派を超えた形で、この問題に取り組んでいただきたいと思います。」

もりおか女性センターフェスティバル2009年 「みんなで考えよう! 子どもの権利」に参加して

常務理事 向井田 郁子

盛岡女性センターフェスティバル2009の一環として、「みんなで考えよう!子どもの権利」をテーマとした講演とパネルディスカッションが10月2日、プラザおでつてで開かれた。会は、「みんなで考えよう! 子どもの権利」を大きなテーマに据え、早稲田大学文学部教授喜多明人氏が「子どもの権利条約採択20周年〜経過と報告」と題して基調講演。神奈川県川崎市や東京都目黒区など自治体で子どもの権利条約作りに関与。まちづくりの子どもが自分の意見を言い、自ら居場所をつくる権利を保証した事例などを遠野市の「わらすこ条例」制定のケースも紹介しながら、子どもにも本人が生きている場所を居やすくするために考える権利がある、と述べた。

一見、豊かな社会に育っているように見える日本の子どもたちの周囲にもいじめや親族による虐待のケースの増加など、人権の面では決して子どもの人格が尊重されているとは言えない状況が生じているのも事実。基調講演の後で行われたパネルディスカッションでは、喜多教授のほかにキャップネットみやぎ代表の村松敦子弁護士、子どもの遊ぶ権利のための国際協会日本支部奥田陸子事務局長らが登壇。「広げよう、子どもの人権と地域ネットワーク」のテーマで子どもの意思を尊重した地域づくりの手法などが語りあわれた。子どもが本当に尊重される地域社会をつくるためには今、日本の子どもたちに最も欠けていると言われる自己決定能力、自己肯定感を育てるために、大人に求められることはあまり子どもの行動に介入、干渉することを差し控える度量の必要が指摘された。

2009年度 (財)日本ユニセフ協会岩手県支部役員		(敬称略・50音順)	
役	職	お 名 前	役 職 名
顧問	会長	達 増 拓 也	岩手県知事
		村 田 源 一 朗	岩手日報社取締役会長
副 会 長		加 藤 善 正	岩手県生活協同組合連合会会長理事
		藤 井 克 己	岩手大学学長
専 務 理 事	常 務 理 事	高 橋 セ キ 子	前岩手県生活協同組合連合会専務理事
		安 藤 厚	前岩手県教育委員長
		佐々木みどり	いわて生活協同組合副理事長
		高 橋 克 公	岩手県学校生活協同組合専務理事
		林 正 文	財日本ユニセフ協会花巻友の会会長
		藤 川 智 美	ボランティアネットワーク 岩手代表
		向 井 田 郁 子	盛岡消費者友の会
		守 谷 祐 志	福祉作業所ほのぼのホーム顧問
理 事		阿 部 正 樹	㈱I B C 岩手放送代表取締役社長
		石 川 育 成	㈱岩手県医師会会長
		稲 葉 暉	岩手県町村会会長
		及 川 公 子	N P O法人岩手県地域婦人団体協議会会長
		大 島 宏	立正佼成会盛岡教会会長
		大 堀 勉	岩手医科大学理事長
		小 松 敬 一	日本放送協会盛岡放送局長
		小 野 庄 子	岩手県中学校長会常任理事
		佐 藤 滋 樹	㈱若手めんこいテレビ代表取締役社長
		瀬 川 玲 子	財日本ユニセフ協会花巻友の会副会長
		谷 藤 裕 明	岩手県市長会会長
		富 永 健 治	㈱若手朝日テレビ代表取締役社長
		豊 巻 浩 也	岩手県教職員組合中央執行委員長
		新 沼 敏 哉	岩手県小学校長会会長
		沼 宮 内 淑 子	もりおか女性の会副会長
		増 子 義 孝	岩手県立大学名誉教授
		松 尾 正 弘	㈱若手県 P T A 連合会会長
		宮 澤 啓 祐	宮沢賢治記念会理事長・花巻商工会議所会頭
		矢 後 勝 洋	㈱テレビ岩手代表取締役社長
		秋 山 信 勝	秋山会計事務所所長
監 事		伊 藤 慶 子	岩手県消費者団体連絡協議会事務局
		内 宮 京 子	日本ボーイスカウト岩手連盟事務局
評 議 員		及 川 サ チ	岩手県退職女性校長会顧問
		大 内 豊	盛岡タイムス社長
		小 野 務	日本労働組合総連合会岩手県連合会事務局
		小 野 寺 晶	国際ソロプチミスト盛岡会長
		加 藤 国 雄	岩手県青年団体協議会会長
		川 村 宗 生	㈱川徳代表取締役社長
		菅 三 郎	㈱若手県社会福祉協議会会長
		清 水 成 樹	㈱日本青年会議所東北地区若手ブロック協議会会長
		柴 田 和 子	盛岡ソニータクソ会長
		鈴 木 露 通	岩手県労働組合連合会議長
		反 町 久 美	いわて生活協同組合理事
		高 橋 克 彦	作家
		千 葉 研 二	岩手県高等学校長協会会長
		千 葉 庄 悦	岩手県商工会連合会会長
		千 葉 進	岩手県高等学校教職員組合執行委員長
		智 田 恵 子	盛岡パイロットクラブ会長
		長 沢 寿 一	岩手県農業協同組合中央会会長
		平 井 ふ み 子	㈱ガールスカウト日本連盟岩手県支部支部長
		三 浦 五 郎	岩手県私学協会会長
		松 田 恭 一	盛岡ライオンズクラブ会長
		村 田 憲 正	㈱エフエム岩手代表取締役社長
		八 巻 恒 雄	岩手県市町村教育長協議会会長



ハンド・イン・ハンド

やってみよう募金活動 ボランティア募集中!

毎年多くのボランティアのみなさまのご協力で続けられてきたユニセフ ハンド・イン・ハンド募金。昨年は、県内80ヶ所・756人のボランティア参加で、合計87万円のご協力をいただきました。今年は、幼い子どもの命をテーマに、11月～12月の2ヶ月間、世界の子どもの支援を訴えていきます。現在岩手県支部では、ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金活動にご協力くださるボランティアのみなさまを募集しています。

盛岡 花巻	12月13日(日) 12:00～14:00
	●カワトク前 ●肴町ホットライン ●イオン盛岡ショッピングセンター ●イオン盛岡南ショッピングセンター ●大通クロスステラス
花巻	12月6日(日) 11:00～13:00
	●イトーヨーカドー ●アルテマルカン

連絡先
(財)日本ユニセフ協会岩手県支部花巻友の会
Tel・Fax 0198-23-5439
(財)日本ユニセフ協会岩手県支部
Tel019-687-4460・Fax 019-687-4491

企業・団体
のみなさま

ハンド・イン・ハンド募金活動にご協力いただける企業・団体のみなさまに「紙製ユニセフ募金箱」を配布いたします。(募金は12月末までにご送金)募金箱の申し込み→岩手県支部・花巻友の会まで

ユニセフカード&ギフト

代金の半分はユニセフ募金



ユニセフのカードとギフトで
世界の子どもたちに未来を

ユニセフのカードやギフトはすべて、定価の約50%が現地活動資金として世界の子どもの命と健康、権利を守る活動に役立てられています。

お祝いに、また、日頃お世話になっている方へのご挨拶に、ぜひこのカタログからユニセフのカードとギフトをお選びください。

県支部にもありますので
お気軽にお立ち寄りください。

2009

全国地域組織学習講師研修会・参加報告

岩手県支部ボランティアスタッフ 鈴木 通子
(いわて生協 ユニセフ委員長)

..... 出席県支部 16支部4友の会(37人)

今回の講師研修会は、ワークショップと各県支部の事例発表を実際に体験、岩手県支部の取り組みに生かせる幾つかの事例がありました。ユニセフ委員会で作成した「すごろく」を会場で参加者に駒になっていただき発表し、久しぶりに楽しく学べたと感想が述べられました。ワークショップ「対立から考える」、「子どもにやさしいまち」ではさまざまな意見・感想がでてとても勉強になりました。ファシリテーターの力量アップも重要な課題。アイスブレイクを新しいものを学び、「食糧分配ゲーム」は食糧だけでなくエネルギーやCO2排出量もあわせて工夫して取り入れたいと思いました。

あなたもユニセフサポーターに

会員になってご支援ください

(財)日本ユニセフ協会岩手県支部では会員を募集しています。

Q 会員ってなに?

A ユニセフ協力を広げるさまざまな活動を行う日本ユニセフ協会を、会費によって支援します。会員になってニュースレターや資料を入手して理解を深め、世界の子どもの状況やユニセフと日本ユニセフ協会の活動を知り、できる範囲で行動する機会にしてください。

Q 会員の種類と会費、会員期間は?

A 3種類の会員があります。

- ①一般会員...個人ならどなたでもお申し込みができます。1口5,000円です。
- ②学生会員...18歳以上の学生が対象です。1口2,000円です。
- ③団体会員...団体、法人、企業などが対象です。1口100,000円です。

団体会員のみ、毎年4月～翌年3月(事業年度)が会員期間です。

※18歳未満の方は「ユニセフ子どもネット」にご参加下さい。お問合せ、お申し込みは岩手県支部まで。

岩手県支部の ボランティアに なりませんか?

詳しくは岩手県支部
までお気軽にお問い合わせ
ください

岩手県支部ではボランティアを募集しています。「まずはユニセフのことを知っていただく」ことから始まるのですが、みなさんのお力をほんの少しだけユニセフや世界の子どもたちのためににお貸しください。

- 運営ボランティア...出前講座・募金活動など県支部の活動について計画を立てたり、ボランティアの中心となって活動しています。
- イベントの手伝い...県支部としてさまざまなイベントでユニセフカードなどの頒布

その他お気軽に県支部へお問い合わせください。ボランティア参加に際しては年齢、経験はまは問いません。みなさんのご参加をお待ちします。

あ と が き

●自然災害による緊急募金がスタートし、被災地における救援活動がすすめられています。みなさまのご支援をお願いいたします。

●「子どもの権利条約」の第7条基本的な人権の一つである出生登録、2007年に生まれた子どものうち、およそ5100万人の出生が登録されていないという。そのほぼ半数が南アジアであり胸がいたみます。出生登録は子どもの保護の第一歩。

●NPO法人「地球のステージ」の本拠地が山形から宮城県名取市に移転、全国公演に拍車がかかりそうです。2000回記念公演がコープこうべで11月開催、県内公演のひろがりをお願いいたします。(藤原)

き り と り

ユニセフ活動 参加申込書

事務局使用欄

受付日

参加希望に ☐ をつけて下さい ☐ ハンドインハンド ☐ ユニセフ会員申込書 ☐ ユニセフボランティア申し込み ☐ ユニセフカード&ギフト	(フリガナ) お名前	団体・学校名
	住所 〒 -	電話番号 () FAX番号 ()

お申し込みは

(財)日本ユニセフ協会
岩手県支部
TEL 019-687-4460
FAX 019-687-4491

〒020-0180
岩手郡滝沢村滝沢字土沢220-3
(いわて生協本部2階)